

学校推薦型選抜 解答例 令和8年度

小論文

次の図は、首都圏に住む0歳6か月～6歳就学前の乳幼児をもつ保護者を対象に、2010年、2015年、2022年に実施されたアンケート調査の結果の一部である。図は「おはしを使って食事をする」ことができる乳幼児の割合の経年変化を示している。

図の結果を説明し、乳幼児期の生活習慣の形成、子育て環境や社会的背景との関連をふまえて考察せよ。その上で、乳幼児期に「おはしを使って食事をする」ことについて、あなたの意見を述べよ。

解答は、解答用紙に1,200字以内（句読点を含む）で記述すること。

(解答のポイント)

- ・ 図の結果を正しく把握した上で、客観的に説明していること。全体の傾向や比較対象の対比をふまえつつ、特に顕著な点を示すことが求められる。着眼点としては、以下のような事項が挙げられる。
 - 全体の傾向：年齢が上がるにつれて「おはしを使って食事をする」割合は一貫して増加し、6歳では9割前後に達している。
 - 年齢ごとの差：特に2歳から3歳にかけて大きな伸びが見られる。
 - 経年比較：2010年、2015年、2022年の調査を比べると、いずれの年でも年齢が上がるほど習得率が高いが、2022年の調査では2歳時点の割合がやや低下している。
- ・ 図の結果をふまえて考察を展開しており、加えて乳幼児の発達や日常生活、現代の家庭や保育環境の実情を理解した上で述べられていること。
- ・ 上記をふまえた上で、乳幼児期におはしを使って食事をするについて自分の意見を述べていること。例として、子どもが自分で食べようとする意欲を尊重すること、自立を促す援助などが挙げられる。
- ・ 論述は、論理的・整合的かつ明快であること。